

6．気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島と並んで温暖な地方です。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内湾沿岸は海岸性の気候で比較的暖かくなります。

雨量は地域により差はありますが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少なくなります。特に内湾沿岸は本県でも雨量の少ない地域です。

平成18年の天候の特徴

1月上旬は強い冬型の気圧配置が断続的にあられわれ気温が低く、中旬以降は高気圧と低気圧が交互に通過し寒暖の変動の大きな状態が続きました。4月は低気圧や前線の影響で天気がぐずつき、5月は前線が本州南岸に停滞し曇りや雨の日が多く、6月から7月にかけても日照時間の少ない状況が続きました。8月以降は天気が周期的に変わり、10月と12月には発達した低気圧の通過による大雨がありました。

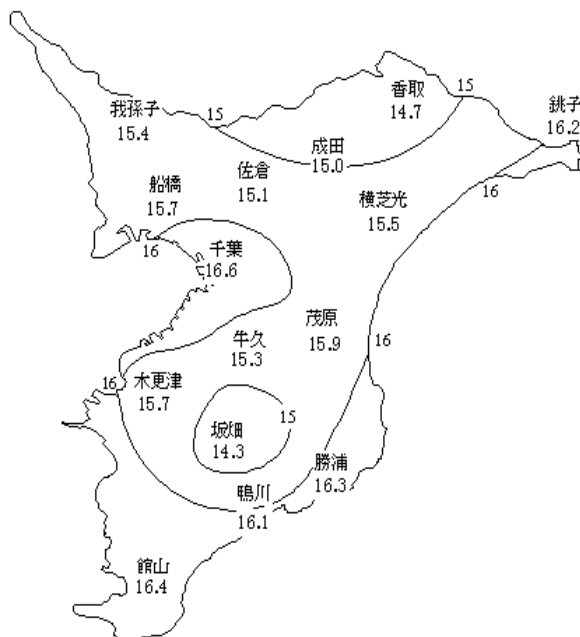
年平均気温は高く、年降水量はかなり多くなりました。

平成19年の天候の特徴

1～2月は冬型の気圧配置の日もありましたが長続きせず、寒気の影響を受ける日が少なかったため気温は高くなりました。7月は梅雨前線が本州付近に停滞することが多く、概ね曇りや雨となり、14～15日は台風第4号が千葉県に接近し南海上を通過したため、梅雨前線の活動が活発となり、大雨となりました。8月は太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多く、中旬は厳しい暑さとなりました。11月中頃から冬型の気圧配置の日が多くなり、寒気が入り気温は低くなりました。

気象分布図 2007年

県内年間平均気温()



県内年間降水量(mm)

